

単元名:異文化に触れ、外国から見た日本の良さについて考えよう。

氏名:中谷 陽輔	学校名:湖南省立岩根小学校	
担当教科:3年担任 図工主任 算数主任 総合的な学習の時間主任 国際理解教育主任	実践教科:総合的な学習の時間、道徳、 外国語、運動会行事	
時間数:12時間	対象学年:3・4年	人数:70人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標 異文化理解、日本文化の尊重

ペルーやその他の国を調べたり、現地の小学生と交流したりする活動を通して、文化や習慣、価値観の違いがあることに気づく。また、外国で日本文化が尊敬されていることを知ることを通して、外国だけでなく、自国の伝統と文化についても興味を持つことができるようにする。

【2】 単元の評価 基準	(ア) 知識・技能	・外国には日本と異なる文化があることを理解している。 ・ペルーには日本人社会があり、日本の文化が尊敬されていることを理解している。
	(イ) 思考・判断・表現	・ペルーの小学生と交流するために必要なことを考え、学習の見通しを持っている。 ・外国の文化を日本の文化と比べ、共通点や相違点、その特徴について考えている。 ・自分とは違う文化や習慣、価値観があることに気づくことができ、様々な人とより良く関わるためにできることを考えている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・進んでペルーの小学生との交流活動に取り組もうとしている。 ・外国の文化に関心を持ち、主体的に調べようとしている。

【3】
単元設定の
理由

【単元設定の理由】

現代社会において、文化や価値観の多様化が進む一方、日本の伝統や文化について触れる機会が少なくなっているように感じる。私は海外に住んでいた際に、伝統舞踊のエイサーが海外の人々から賞賛を受けている姿を目の当たりにした。また、日系社会に触れ、日本人が大切にしてきた心や考え方を改めて振り返る機会を得て、感銘を受けた。また、ペルーにおいて現地の方々も子どもの進学先として日系校を選択するご家庭が多いことを知った。日本人としてとてもうれしく思う気持ちもあり、ぜひ実際に見て感じた感情を子どもたちに伝えたいという思いを持つようになった。まずは、外国の文化を知り、自国の文化との違いに触れ、共通点や相違点、その特徴について考えを深めていく。そして海外研修で訪問したホセ・ガルベス校の子どもたちと交流し、お互いの学校生活について紹介をし合い、海外においても日本文化が尊敬されていることを知って、自国の文化や伝統を大切にする気持ちを高めていきたい。

【児童観】

岩根小学校の3、4年生にはブラジルやペルー、スリランカなどの外国にルーツのある子どもたちが在籍している。児童らは幼少期からかかわっているため、お互い自然にかかわることができる児童が多い。難しい日本語でとまどう場面があると、やさしく声をかける姿や、学び合おうとする姿がとても見られる。わからない問題や困っている子がいたときに「一人にしない」という意識が高い子どもたちがとても多い。一方で、自分の思いをうまく伝えることが苦手なことがあり、心無い一言や、意見の食い違いからトラブルになることもある。一人ひとりが大切な存在であり、違いがあっても認め合うことができるような感覚を高めることを目指していく。

【教材観】

3、4年生児童の中には、ペルーやスリランカ、ブラジルにルーツがある子たちが在籍しているため、外国について調べたいという思いは持ちやすいと考える。日頃、一緒に学校生活を送っていても、お互いの国の文化について改めて意識することは少ない。クラスの子どもたちはペルーがどんな国か知らない子たちもいるため、まずは授業者が夏に訪れたペルーの学校生活や文化(食事、遊びやスポーツ、行事、特産物、観光地、学校生活)などを調べ、日本との違いや共通点について初めて知り、もっと違う国や様々な文化を知りたいという考えを持たせたい。単元の中では、スリランカにルーツがある児童の保護者をゲストティーチャーに迎えたり、父親がブラジルから移民した本校職員からお話を聞いたりすることで、海外の文化を身近に感じるきっかけにしたい。

最後に、本校とホセ・ガルベス校の児童たちがビデオレターで交流を行い、互いの学校生活を紹介し合う活動を通して、ペルーと日本には深い関係があることに気づかせたい。さらに、日本の文化や伝統を大切にしているペルーの人たちの姿から、自国の文化や伝統について改めてその良さに気づくことができるようにしていきたい。

【指導観】**○総合的な学習の時間について**

本単元では、児童が興味のあるペルーのことについて、授業者が撮影してきた写真をもとにしたフォトランゲージで考えを深めていく活動を行う。その際、日系校について児童に紹介を行い、海外においても、日本の文化や伝統的なものがあることを知る。また、児童が興味を持ったテーマを調べることを通して、ペルーと日本の生活様式・文化の違いや共通点について自分なりの考えを持たせる。

また、世界には、日系社会や日本の文化、伝統芸能等があることを知る。遠く離れた国々でも、日本文化が親しまれ、人々の生活の中にあることや、日系移民の方がいて、その人たちが日系コミュニティを築き、世界の人たちに日本人のよさを発信していることにも触れさせたい。岩根小学校では、今年度運動会で伝統舞踊のエイサーに取り組んだ。研修先のホセ・ガルベス校の運動会でも演技をしていたので、互いの演技を見合い、日本の伝統的な踊りが海外でも取り組まれていることを知ることで、日本の伝統文化に親しみを感じさせたい。

○外国語活動について

外国語の授業を活用して海外を身近に感じさせたい。スペイン語の簡単な自己紹介をする活動を通して、外国語を学ぶと世界が広がるという感覚を児童たちに味わわせたい。

○道徳科について

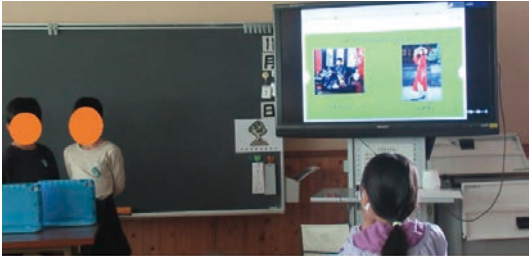
道徳科では、「外国からの転校生」という題材の自作教材にして、もし外国に自分が転校することになったらどんな気持ちになるか自分の考えを深め、言葉が通じない人たちにできることは何かということを考えさせたい。

○ICT機器の活用について

本単元では積極的なICT機器の活用を行う。調べ学習では、オクリンプラスというアプリケーションを活用して、グループ編集を行い、スライドに調べたことをまとめさせて発表させたい。授業の中では、気になった友達の意見や考え方について交流を行う。

また、ペルーの学校の児童たちと交流する際に自分たちで決めたテーマに沿って、動画編集作業を行う。その際、動画編集アプリであるiMovieの機能を活用して取り組む。

【4】展開計画(全12時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 道徳	テーマ 日本とペルーの学校の違いとつながりについて考える。 ねらい 日本とペルーの学校の違いについて考えることを通して、外国の学校との違いや外国と日本のつながりに気づき、外国に親しみを感じ、もっと知りたいという意欲を高める。	・日本文教出版 小学道徳「生きる力」の教材「同じ学校でも」を、研修でお世話になったホセ・ガルベス校の紹介に変えて、自作教材を作成する。自身が経験したことをもとに、世界の学校を紹介し、日本の学校生活と違うことや同じことを紹介する。その際に、ホセ・ガルベス校が日系校であることを知らせる。 ・日系校は、移民をした日本人が日本の文化や言葉を継承することを目的として創設されたが、ペルー人も在籍していることを伝える。日本人が大切にしている気持ちや心、伝統芸能や文化がペルーの人たちが興味を持ち、とても尊敬されていることを知る。	自作教材「ペルーにある日系校ホセ・ガルベス校」ワークシート タブレット端末 アプリケーションソフト「オクリンクプラス」  
2 総合	テーマ 学びの見通しを持つ。 ねらい 「外国の文化や学校生活を知り、日本の学校生活や文化の良さをペルーの子どもたちに伝えよう。」	・Kahoot!というアプリを活用して、ペルーにまつわるクイズや文化の紹介で、学習への意欲を持たせる。日本にルーツがある子たちが世界にいることを知り、その子たちが日本の学校生活の様子にとっても興味があることを伝える。 ・単元を通して、ペルーの日系校の子どもたちに、お互いの学校生活や自国の文化を紹介し合うことを目標に学習を進めていくことを伝える。	・アプリケーションソフト「Kahoot!」 ・ワークシート ・アプリケーションソフト「オクリンクプラス」 ・CANVA ・世界地図 ・タブレット端末
3 外国語	テーマ スペイン語に親しもう。 ねらい 英語以外の言語に触れることを通して、コミュニケーションにおいて活用できる基本的なあいさつの言い方について興味を持つことができる。	・スペイン語が多くで多くの国で使われていることを知る。 ・基本的なあいさつや日常会話について紹介する。 Hola こんにちは Chao さようなら Gracias ありがとう Perdon すみません Me llamo OO 私はOOです。 Me gusta OO 私はOOが好きです。 ・数字について知る。 ・ペアになって自己紹介を行う。 Hola. Me llamo OO. Me gusta OO. Mucho gusto. こんにちは 私はOOです。私はOOが好きです。どうぞよろしくお願いします。 ・スペイン語の歌をみなで歌う。 「Un poco loco」(映画 リメンバーミーより)	・ワークシート ・CANVA ・オルガン

4 総合	テーマ ペルーの様々な文化について紹介し、日本と似ている点、違う点を出し合う。 (商店の写真、住居、音楽、衣装について) ねらい 異文化に触れることをとおして、より興味を持つことができる。	・ペルーのお店、建物の写真でフォトランゲージを行う。 ・ペルーの商店に置いている野菜や果物、鶏の肉などの売られ方や様子について日本の商店と比べて気づいたことを話し合う。 ・滋賀県の建物の様子とペルーの建物の様子について比べて気づいたことを話し合う。 ・ペルーの衣装について気づいたことを発表する。 ・ペルーの音楽を聴き、感じたことを交流する。 ・ペルーの楽器に実際に触れてみる。 どちらも、日本と似ているところ、違うところについて触れ、外国の様子について興味を持たせ、次の時間に自分の興味のあることを調べるように伝える。	・CANVA ・フォトランゲージの写真 ・ワークシート ・ペルーの伝統衣装 ・リヤマとクイのぬいぐるみ ・ペルーの楽器 (サンポーニャ、ケーニャ) ・ペルー国旗
5 6 総合	テーマ 外国の文化について調べよう。 ねらい 外国について自分たちで調べたり、友達の発表を聞いたりすることで、興味をもち、日本との違いや似ている点に気づくことができる。 調べて気づいたこと わかったこと ・フィンランドのスポーツは、日本と違ってサッカーじゃなくてアイスホッケーだったのがびっくりした!! ・フィンランドは、日本とちがっていちにち5食食べるのがはじめてだったしびっくりした!!	・児童らが興味を持った外国について知りたいことをテーマ別に分かれて調べる。 ・あいさつ ・食文化 ・家庭料理 ・主食 ・行事食 ・学校生活 ・民族衣装 ・行事やお祭り ・スポーツ ・楽器 ・歴史など テーマごとに調べたことを班ごとに発表し合う。聞き手は感想を書き、交流する。  	・参考図書「ちずでぐるり! 世界一周えほん」 ・アプリケーションソフト「オクリンプラス」
7 総合	テーマ 外国にルーツがある人のお話を聞く。 ねらい 外国にルーツがある人の話を聞いて、外国に興味を持ったり、日本との違いについて気づいたりする。	・スリランカ出身の保護者の方にスリランカの文化やタミル語について紹介をしてもらう。(食文化、伝統的な衣装、言語、生活など) ・日本とスリランカとのつながりについて話をしてもらう。 ・日本に移住して思ったことを話してもらう。 ・多文化共生をしていく中で、私たちにできることは何かについて考える。 ・話を聞いて気づいたことや考えたことをまとめ、質問を行う。 	・スライド ・ワークシート ・ゲストティーチャー ・スリランカの食材や調味料 ・スリランカの伝統衣装 ・タブレット端末 

8 総合 本時	テーマ 外国にある日本文化(日系文化)について考える。 ねらい ペルーと日本には、昔から深い関係があることを知る中で、日本との共通点やつながりを理解する。	・自校の運動会で子どもたちが演技したエイサーは、海外でも踊られていることを伝える。 ・ペルーにある日本文化について知る。日系の学校や日本人協会の写真を見て、気づいたことを交流する。 ・日系の学校で大切にしている5Sの考えについて触れる。(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) ・神戸移住センター、JICA横浜海外移住資料館の資料を使って、移民について内容をわかりやすく整理し、説明を行う。 ・移民の方が渡航するための準備物や、壮絶な移住の歴史や、世界で活躍する日本にルーツがある人たちの功績を話す。 ・校内の日系の本校職員、松永さんに自身のお父さんがブラジルに移民をした際の経験をお話していただく。	・フォトランゲージ用の写真 ・CANVA ・アプリケーションソフト「オクリンクプラス」 ・タブレット端末 ・パーラソク ・ばち ・大太鼓
9 10 11 総合	テーマ 日本の紹介をペルーの子たちにグループごとに分かれて行う準備をする。	・ホセ・ガルベス校との交流で、現地校の子どもたちが興味を持ったものを中心に紹介するためのムービーを作成する。 ・マスコットキャラクター ・運動会 ・150周年記念行事 ・避難訓練 ・学校生活 ・日本で人気の歌、キャラクターなど、グループに分かれて紹介するムービーを考える。	・タブレット端末
12 総合	テーマ ビデオ交流を行い、互いの学校について紹介を行う。互いの学校紹介で感じたことを感想文にする。	・日系校での学校生活を知り、ペルーにおいても日本の教育が尊敬されていることを知る。 ・単元を通して、日本の文化が世界でとてもしすべクトされていることを知り、自国の文化について考えたことを感想文にして交流を行う。	・タブレット端末

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1. 運動会で踊ったエイサーの動画を振り返る。	○エイサーは日本の沖縄県の伝統的な踊りであることをおさえる。 ○日系校「ホセ・ガルベス校」でも、演技していたことについて触れる。	・本校運動会の動画 ・ホセ・ガルベス校の運動会の動画 ・パーラソク ・大太鼓
めあて:外国にある日本文化(日系文化)について考えよう。			

展開 (30分)	2. 日系校ホセ・ガルベス校の子どもたちの学校生活の様子について話し合う。 ・整理されている棚やノート、机やカバンについて 3. 日系移民について簡単なことを知るワークショップを行う。「四コマストーリーを完成させよう!」 4. ゲストティーチャーの松永さんの話を聞く。	○気づいたことや考えをタブレットで書き、全体で共有することができるようにする。 ○日系学校で大切にしている5Sの考えについて触れる。(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ) ○文化の違うペルーでも日本の考え方が大切にされてきていることをおさえる。 ○日系移民の簡単な歴史をストーリーにしてスライドで紹介する。 ○4つのスライドを子どもたちに送り、順番を並びかえてストーリーを考えさせる。 ○海外において、日本が好意的に思われている背景には、日系の方たちの長年の努力があったことをおさえる。 ○松永さんの両親がブラジルへ移民を経験された話を聞く。 ○移民先で、とても苦勞された経験や、現地での仕事、日本コミュニティについて触れる。	・フォトランゲージ ・アプリケーションソフト「オクリンクプラス」 ・タブレット端末 ・アプリケーションソフト「オクリンクプラス」 ・スライド
まとめ (10分)	5. ふりかえりを行う。 外国にある日本文化や日系の人たちについて考えたことをタブレットに記入させる。	○スライドに自分の考えを記入させて、全体で共有する。何名か発表する時間を取り、考えを全体で交流する。	・アプリケーションソフト「オクリンクプラス」

【授業実践の様子】



自校とホセ・ガルベス校のエイサーの演技の比較

ホセガルベス校の様子を見て気づいたこと

ノートが1つ1つならべられている。
ゴミ箱が密集している。
プリントが壁にかけてある。
前の岩根小学校と一緒に階段に文字が書いている。

子どもたちの記述①

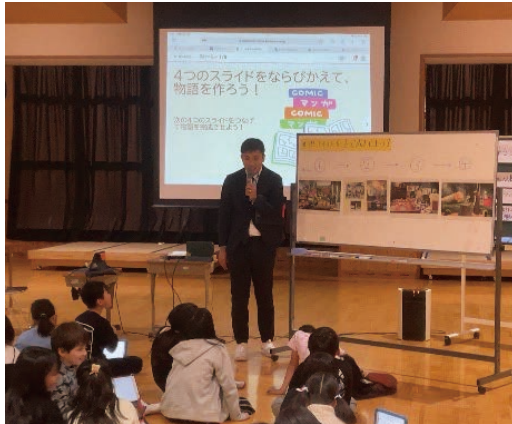


ホセ・ガルベス校の様子を見て気づいたことをタブレットに記入

ホセガルベス校の様子を見て気づいたこと

ゴミ箱が アルミ 燃えるゴミ 生ゴミにわかれてる。
きょうかしよがちがう。
整理のしか違う。

子どもたちの記述②



アクティビティ
「4コマストーリーを完成させよう」

松永さんの話を聞いて考えたこと

松永さんのお父さんとお母さんも外国に行っていて外国では、
でっかいまるを切って色々しているのが大変だと思った

私はもっと外国のことをしりたくなりました。松永さんの、10
人の家族がいるなんてびっくりしました。



外国人相談通訳(学校)松永スザンナ美奈さんの
日系移民についての体験談

- ・ 船の上で運動会やおどったりできるのがびっくりした。
- ・ 怖いけど1回だけ体験してみたい。
- ・ ペルーのことがどんどんわかってこれて嬉しいし
もっと調べて知りたくなってきた。

最初は大変だったけどだんだんいつのものの暮らしができるよ
うになっているようになっていた。

家族10人！で船に乗って何日もかけて海を渡ってその間皆ん
なが暇じゃないようにダンスや運動会をして何日もひまじゃな
いようにすごしているのがわかった

[6] 本時の振り返り

児童らは、導入で自分たちが運動会で演技をしたエイサーが海外でも行われていたことを知り、どうしてエイサーが海外でも踊られているのかという疑問を持って学習活動に取り組もうとしていた。展開の「4コマストーリーを完成させよう」では、大人数で行ったため、タブレットのサーバーがうまく機能せず、データの送信にとても時間がかかったが、子どもたちは、黒板に提示していた図を、写真機能を活用したり、送信された友達のタブレットを活用したりと柔軟に対応して、臨機応変に対応して課題に何とか取り組むことができた。

また、外国人相談通訳担当の松永さんの話では、どの子たちも真剣に話を聞いて学習に参加している様子が見られた。感想の中では、外国にわたった当時の人々の苦労や工夫を感じることができた。3・4年生に対しては少し難しい話であったが、本時で考えたかった日系移民について触れて、海外でも日本文化を伝承しておられること、日系の人々が世界での日本人の信頼度を高めてくださったことへの貢献の大きさについて、少しでも伝わったのではないかと考える。

[7] 単元を通した児童生徒の反応/変化

授業後の振り返りでは、第1時では、「今までは日本の学校のことしか考えたことはなかったけど、海外の学校についてもっと知りたいと思った。」「海外では、日本と学校の決まりやルールも少し違うことを知った」という意見があった。

学習を進めていく中で、「外国についてもっと知りたい」という意見が高まり、自分の興味を持った外国について調べた際は以下のような感想が出てきた。

調べてわかったこと、気付いたこと

わかったこと有名なご飯や、伝統的なおどり有名なスポーツ伝統的な衣装、日系の人が住んでいる場所がわかったしペルーがどんな国なのかわかった！

気付いたこと有名なおやつがチュロスとドーナツがゆうめいだとおもわなかった

次は違う国もしらべたいです

ペルーを調べた子

調べてわかったこと

・フィンランドのスポーツは、日本と違ってサッカーじゃなくてアイスホッケーだったのがびっくりした!!

・フィンランドは、日本とちがっていちにち5食食べるのがはじめてだったしびっくりした+!!

フィンランドを調べた子

調べて、分かった事と

・シンガポールで、[すごいおどり]の写真を見て、私は、はだしてやっているのを見て、すごいと思いました。

・シンガポールの女性の服装は、下のスカートと、上の服と、ちゃんと、理由があって、作られるんだなと思いました。

新しいぎもん

・シンガポールの学校を見て、服装が、日本人の大人が、着ている服装に、にている、なぜ、あの服装なのか知りたいです。

シンガポールを調べた子

調べてきづいたこと、わかったこと

・日本ではごはんや魚や野菜をまぜたりするのは普通でスペインでも普通だけど日本ではレモンを入れるのが普通じゃないけどスペインではレモンを入れるが普通なのがあった。

・↑食文化などが日本とはちがうのがわかった。
・いしょうなど、日本とはちがうのがおどろいた。

スペインを調べた子

自分で調べ、今まで知らなかったことを知することは子どもたちにとってとても新鮮な活動であったことが上記の記述よりわかる。

スリランカの話聞き、感じたことでは、「日本に来られてスリランカの友達と離れて寂しい気持ちになったことはとてもつらいことだと思った。」「日本の友達が親切にしてくれてうれしかったという話は、なんだか自分もうれしい気持ちになった。」という感想を持った。

日系移民のお話を聞いた際は、「海外でエイサーがあるのはなぜかと思ったけど、日系の人々が何世代にもわたって伝え続けていたからあるのだと知った。」「仕事をする場所があると思って行ったらジャングルだった時の気持ちを考えると、大変な苦労があったと思った。」と感想を持った。

【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

児童たちは、学習前は外国に対して学習することが少なかった。授業前に少しアンケートを取ってみたが、「外国について知りたいこと」というアンケートからは、「日本から出ることはないからあまり外国に関心がない。」「自分の興味がある国は行ってみたい。」など、すべての子たちが国際理解分野に関心があるわけではなかった。ただ、道徳科「同じ学校でも」の学習では、外国の学校生活の違いについて学び、とても興味を持って学習に取り組もうとする姿が見られた。そこでホセ・ガルベス校が日系校であることを知り、新しい疑問を持つ子たちが現れた。「外国にどうして日本にルーツがある人がいるのか。」「ペルーや外国の文化について自分なりに知りたい。」と話すようになった。当初は、ペルーの文化について調べ学習を行う予定をしていたが、児童の反応で様々な国を調べたいという意見が多かったため、興味のある国を調べることにした。自分の興味のある国の食文化、言語、人気のキャラクター、学校の様子、服装や伝統的な踊り等を調べる中で、日本と外国の文化の相違点や共通点を見つけ、自分たちでまとめていく中で、「日本と全然違うことをしていると思っていたが、似ている点もあって驚いた。」「もっと外国の文化を知りたいと思うようになったし、実際に行ってみたくなった。」と思う気持ちが高まった子たちもいた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

派遣前の授業では、初めて学ぶ海外についてとても興味関心が高い子たちがたくさんいた。特に興味が高かったのは、「食事」や「学校生活」についてである。一方で、開発途上国の人たちは、物質的に豊かでないというイメージを持つ子たちも多かった。だからどうしても「かわいそう」というマイナスなイメージを持つ子たちもいた。また、文化が違うからこそ、「やっぱり日本がいい」と話す子たちもいたり、「日本から出る必要がないから知らなくても困らない」という子もいた。

(授業後)

調べ学習では、異文化に触れる活動を通して、日本との様々な違いや似ているところを考えた。その中で、「違うことは悪いこと?」と発問すると、どの子も「いいこと。だってとなりの人だって違うもん。でも違っても仲間」と話す子がいた。国調べの発表では、約20か国近くの国について児童たちは知り、振り返りで、「知らないことだらけでびっくりしたけど、違うこともいいことだと思った。」という意見や、「クラスの中にも外国にルーツがある子がいるけど、その子の気持ちも考えてみたい。」といった意見が出た。

全体的に海外に興味を持ち、文化の違い、国の違いがあっても、それを受け入れていこうとする気持ちを高められたように感じる。

【8】自己評価

1. 苦労した点

単元構想を何度も考え直し、子どもたちが興味を持って取り組むことができ、その中でこちらの思いである、日系移民の方々が、海外でも日本文化を伝承しておられること、日系の人々が世界での日本人の信頼度を高めてくださったことへの貢献の大きさについて子どもたちが気づくことができるように学習を考えることにとても苦労した。自分だけの思いではなく、子どもたちが自分たちで課題を持って学習に取り組むことができるようにするためには、どこかで自ら課題を設定して考える時間が必要だった。そこで、海外の文化を調べ学習としてスライドにまとめさせ、発表をしたことで、それぞれの子どもたちが気づいたことをまとめることができ、その後の学習の筋道ができたように思う。

さらに、今回は、保護者や職員等のゲストティーチャーと何度も相談を行って授業構想を練った。保護者の方は、自国の文化についてどこまで話せばよいか、外国と日本との繋がりや、外国で日本がどのような国であるか、また日本に来てどのような苦労があったか等、子どもたちに考えさせたい内容についての検討に遅くまで付き合っていただき、取り組むことができた。

最後に、自由進度で学習を行う時間を設け、約70人で授業を行ったが、やはり、各クラスと違い一人ひとりの授業進度を把握することはとても苦労した。

2. 改善点

単元構想で子どもたちをさらに引きつけることができる問いのデザインが課題。外国から見た、日本の文化を知ることをゴールとしていたが、子どもたちは、ペルーだけでなく、海外の文化をもっと知りたいという話をよくしていた。単元の内容も少し難しい内容だったので、同じ内容で取り組むのであれば、高学年で実施することを想定することも課題である。特に日系移民の方の思いや願いを考えることは、知識が少ないため、子どもたちが理解するまでに少し時間がかかった。

	また、外国語の授業はとても興味関心が高く、もう少し時間をとっても良いと感じた。英語以外の外国語に触れる機会は日常生活ではなかなかないが、本校にはペルーにルーツがある子が在籍しているため、あいさつや自己紹介などの日常会話の基礎を知り、その子たちに母語に関わるという経験は、どちらの子たちに対しても大切だと感じた。インクルーシブ教育の推進という視点からも、様々な外国語に慣れ親しむという活動は子どもたちに人権的な視点について考える良い機会であると感じた。
3. 成果が出た点	学習を通して、子どもたちに大きく3点の変容を感じるがあった。 1つは、外国籍児童に対する考え方である。文化や見た目などの違いがあっても、共生していくことは、幼稚園から一緒だったこともあり、自然と分け隔てなく関わることができていたが、外国にルーツがある方たちが、苦勞したこと、日本に来て困ったときに助けてくれた友だちの存在がとても大きかったという話が印象に残り、校内で取り組んだ「人権作文」では、相手の気持ちを考えた温かい言葉がけを心がけるという思いや、違いを受け止めることができるようになりたいという思いを全校の前で発表する児童がいたことは、大きな成果として考えられる。 2つ目は、海外に興味を持った子たちが増えたことである。中学年の子たちにとって海外は身近なものではなく、少しイメージしにくいものであった。指導後は、実際に県内のペルー料理店に行ったり、夏休みの自由研究でペルーについて調べたりした子たちがいた。国調べをしていたときも、授業以外に自主学習ノートに外国について意欲的に調べようとする子たちが増えていたことも成果と言える。 3つ目は、日本文化に対して関心が高まったことである。運動会で行ったエイサーの演技も、ホセ・ガルベス校のエイサーと比べて考えることで、世界でも日本文化が伝承されていること、さらに日系校との交流を通して、様々な方々が日本文化、日本人の信頼度を高めて下さったということを知ることができ、日常生活の中にある日本の文化についても、調べようという意欲が高まったように感じる。
4. 備考	今回の取り組みの目標は、「授業者が授業実践を積む」ということだった。海外研修では、JICA職員の皆様、研修講師の先生方、関西の校種を超えた先生方と共に国際協力の現場を自分の目で見えて感じたことを形にするというなかなか経験することができないことをたくさんさせて頂いた。 様々な立場の方が国際協力のためにできることは何かを必死に考えておられることを知り、「教育現場」において自分ができることは何かということを考える機会をいただいたように感じる。実践をやってみて、子どもたちが少しでも海外に興味を持ち、行ってみたいと感じること、また海外から見た日本という視点で自国の文化について向き合う時間を、大人も子どもも持てたことはとても貴重な機会だった。 今年度限りの取り組みにしないためにも、自校のカリキュラムマネジメントが必要だと感じた。カリキュラムマネジメントしていく中で、継続した通年の取り組みとして、総合的な学習では、保護者や外部講師の方と連携を取り、単元計画を丁寧に行い、自校の教育目標に繋げていくことが必要であると感じた。インクルーシブ教育の考えである、すべての子たちが安心して学習に取り組むことができるようにするために、今後滋賀県においても外国の方が増加することが予想されるため、その子たちが安心して学習に取り組むことができる基盤を作っていきたいと思う。

また、国際理解教育に対して、組織で考えていくことができる教職員集団づくりに関しても興味を持った。具体的には、外国人児童教育部会を新設すること、国際理解通信、職員研修を企画し、年間を通して、様々な角度から考えていくことはとても大切であるように思う。

最後になったが、この研修をサポートしていただいた、JICA職員の皆様、講師の皆様、一緒に学んだ関西の先生方、現地でお世話になった皆様には感謝の気持ちを述べて授業実践報告とする。

添付資料①:ホセ・ガルベス校で撮影した写真(授業者自身と研修参加者)

ホセガルベス校の学校生活の様子について気づいたことを話し合おう。



アクティビティ①

ノートの提出方法



プリントの整理の仕方



ノートやお道具箱の整理について



棚の様子



ゴミ箱について



添付資料②:JICA横浜海外移住資料館にて授業者が撮影した写真

4つのスライドをならびかえて、
物語を作ろう！

次の4つのスライドをつなげ
て物語を完成させよう！

COMIC
マンガ
COMIC
マンガ

